

## 信仰がもたらすもの

(ヘブル11:8-16)

## 一、「信仰」をめぐって

11章1節に「さて、信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」とあります。この聖句を見ますと、「信仰とは何なのかここに語られている！」と考えたりします。そういう読み方もありますが、もし信仰とは何か、と語っていると受け止めようとするなら、イエス・キリストの福音が入っていないのは具合が悪いと考えます。12章2節に「信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをもともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです」とあります。信仰とは、主イエス・キリストが父なる神をどう信じ通したかに始まり、キリストの贖い抜きには語られないことばであると思つわけです。

## 二、アブラハム物語の再解釈

11章8節をご覧ください。信仰によって、アブラハムは相続財産として受け取るべき地に出て行くようにと召しを受けたときに、それに従い、どこに行くのかを知らずに出て行きました。」と

あります。アブラハムの信仰は、主イエス・キリスト信じるることによって完成に至る信仰の原型です。9節、10節を見てまいりましょう。「信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束とともに受け継ぐイサクやヤコブと天幕生活をしました。堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都の設計者、また建設者は神です。」とあります。ヘブル人への手紙の著者は、キリストの福音によってアブラハム物語を再解釈しているのです。ヘブル人への手紙によれば、アブラハムが求めていたのは、目に見える約束の地と子孫ではなく、天にある財産だったというのです。これは非常に教えられるべきです。ヘブル人への手紙が語っているのは、あくまでも主イエス・キリストの福音です。そういう視点で、11節も見て行く必要があります。アブラハムは、すでにその年を過ぎた身であり、サラ自身も不妊の女であったのに、信仰によって、子をもうける力を得ました。彼が、約束してくださった方を真実な方と考えたからです。皆々、この聖句をどのように適用されますか。人生で、「これは無理だろうな」と思つことはありませんか。おそらくあると思います。大きな意味でも小さな意味でも、ですが、百歳のアブラハム、九十歳のサラの間に子供が生まれたというのです。しかも子供の誕生は、主がアブラハムに語られた約束が実現するためには、どうしても必要なことでした。こうして12節です。「こ

ういうわけで、一人の、しかも死んだも同然の人から、天の星のように、また海辺の数えきれない砂のように数多くの子孫が生まれたのです。」とあります。ところが、13節です。「これらの人たちはみな、信仰の人として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでした。が、はるか遠くにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり、寄留者であることを告白していました。」とあります。私たちが見ますと、アブラハムは神の約束を信じて、約束のものを手にしました。ところが、ヘブル人への手紙によれば、「これらの人たちは(略)約束のものを手に入れることはありませんでした」とあります。彼らが手に入れることができなかったものは何だったのでしょうか。それは天にある都、主イエス・キリストにある揺るがない神の王国です。私たちも同じです。16節をご覧ください。しかし実際には、彼らが憧れていたのは、もっと良い故郷すなわち天の故郷でした。ですから神は、彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。神が彼らのために都を用意されたのです。」とあります。キリストの福音によってアブラハム物語を再解釈するなら、そういう意味になるということです。アブラハムが現

状に満足することはありませんでした。

## 三、信仰がもたらすもの

私共は、教会に通っている人が全人口の1%にも満たない日本国で生活しています。教会が維持できなくて、閉鎖せざるを得ないことが起きている日本という国で生活しています。キリスト教会はさらに衰退して行き、無くなってしまうのでしょうか。これについては、私共がもがいて、どうしようにも、むずかしいです。事は、神がどつされるのかです。人任せに聞こえるかも知れませんが、人任せではありません。神任せです。ハバクク書3章に書かれていることが当てはまると思います。「そのとき、いちじくの木は花を咲かせず、ぶどうの木は実をみのらせず、オリーブの木も実りがなく、畑は食物を出さない。羊は困いから絶え、牛は牛舎にいなくなる。しかし、私は主にあつて喜び勇み、私の救いの神にあつて喜ぼう。」と。神にできないことはない、神には何でもできると信じて、歩むことが、主イエス・キリストが教えてくださった道であると信じます。と、私は申しましたが、もちろん答えは一つではないと思います。ですが、キリストに愛されて愛されて、この教会の牧師として、主と教団から遣わされたひとりの人間がそのように考え、主に信頼していると受け止めてくださったら、幸いです。